

ヤングケアラーの就職支援

相田美咲

高知県立図書館（オーテピア高知図書館）

1. はじめに

本レポートで論じる事業は、第23回ビジネス・ライブラリアン講習会で学んだことを基に、ワークショップで指摘された点やアドバイスを踏まえて加筆修正したものである。

全国的に問題となっているヤングケアラーの支援と、高知県が抱える人口減少の問題を絡め、その両方の解決を目指す。

2. 事業の背景と課題

2-1. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」のことである。家事の手伝いや家族の世話をすることで、勉強の時間が取れなかったり友だちと遊ぶ時間がなかったり、学業や友人関係に大きな影響を及ぼすことがある。また、十分な睡眠時間を確保できず、健康に悪影響が出ているケースもある。

もちろん、子どもが家事や家族の世話をを行うことが必ずしも悪影響を及ぼすとは限らない。家族の絆が強まった、自立心や家事等生活能力が養われた、などの人生にプラスの側面もある。しかし家事・家族のケアに時間を取られて子どもの権利が守られていない状況もあり、大きな問題となっている。

『ヤングケアラーの実態に関する調査研究』[令和4年(2022)3月]によると、家族の世話をしていると回答したのは小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%、全日制高校2年生で4.1%、定時制高校2年生相当で8.5%、通信制高校生で11.0%、大学3年生で6.2%である。世話をしている頻度については、いずれの年代でも「ほぼ毎日」が最も高い。小学6年生で52.9%、中学2年生で45.1%、全日制高校2年生で47.6%、定時制高校2年生相当で35.5%、通信制高校生で65.3%、大学3年生で45.9%が、ほぼ毎日家族の世話をしている状況である。

表1 ヤングケアラーの実態に関する調査研究 [令和4年(2022)3月] 抜粋 (%)

	調査数 (n=)	世話をしている 家族がいる	調査数 (n=)	世話をしている 頻度がほぼ毎日
小学6年生	9,759	6.5	631	52.9
中学2年生	5,558	5.7	319	45.1
全日制高校2年生	7,407	4.1	307	47.6
定時制高校2年生相当	366	8.5	31	35.5

通信制高校生	445	11.0	49	65.3
大学3年生	9,679	6.2	987	45.9

高知県においては、世話をしている家族がいる中高生は 15.3% (492 人)、そのうちやりたいけどできていないことがあるのは 11.2% (55 人) で、かつ世話をを行う頻度がほぼ毎日であるのは 55 人中 24 人である。相談したことの有無に関しては 55 人中 37 人がないと回答した。¹ やりたいことができず、ほぼ毎日世話をしている 24 人はヤングケアラーであると言える。

表 2 『高知県ヤングケアラー実態調査』令和 5 年(2023) 2 月 抜粋 (%)

		回答数 (人)	世話を している 家族が いる	回答数 (人)	世話をし ている頻度 がほぼ毎日	やりたい けれど できてい ないこと がある	世話につい て相談した こと がない
全体		3,218	15.3	492	15.9	11.2	31.1
学 校 別	中学校	1,729	15.5	268	12.3	7.8	28.7
	高校	1,489	15.0	224	20.1	15.2	33.9
	全日制	1,388	15.1	210	20.0	14.3	32.9
	定時制	71	12.7	9	22.2	11.2	33.3
	通信制	21	9.5	-	-	-	-

日本で初めてヤングケアラーの相談窓口が設置されたのは神戸市である。² 20 代の幼稚園教諭の女性がケアを行ってきた祖母を殺害した事件に端を発する。女性は社会人になっただけで、過酷な介護と仕事の両立に苦しんでいた。³ 神戸市では 20 代の若者も支援対象にしていることから、ヤングケアラーではなく「こども・若者ケアラー」という言葉を用いている。本レポートでは一貫してヤングケアラーという言葉を用いるが、論じる事業内容には 18 歳未満のこどもだけでなく 20 代の若者も対象に入る。

ヤングケアラーが直面する問題の一つに「就職」がある。家族のケアを優先し、就きたい仕事や夢を諦めてしまう。ケアのため地元を離れることができなかつたり、長時間の勤務が難しかったり、なかなか就職先が見つからない。そもそも、就職活動の時間が取れない。就職活動の際に「学生の時に何をしていたのか」「どうしてあなたが介護を行わなければいけなかったのか」「さぼっていただけではないか」とケアをしてきたことに対する理解を得られず、上手く自己アピールができない。こういった理由で就職活動が上手くいかないケースがある。

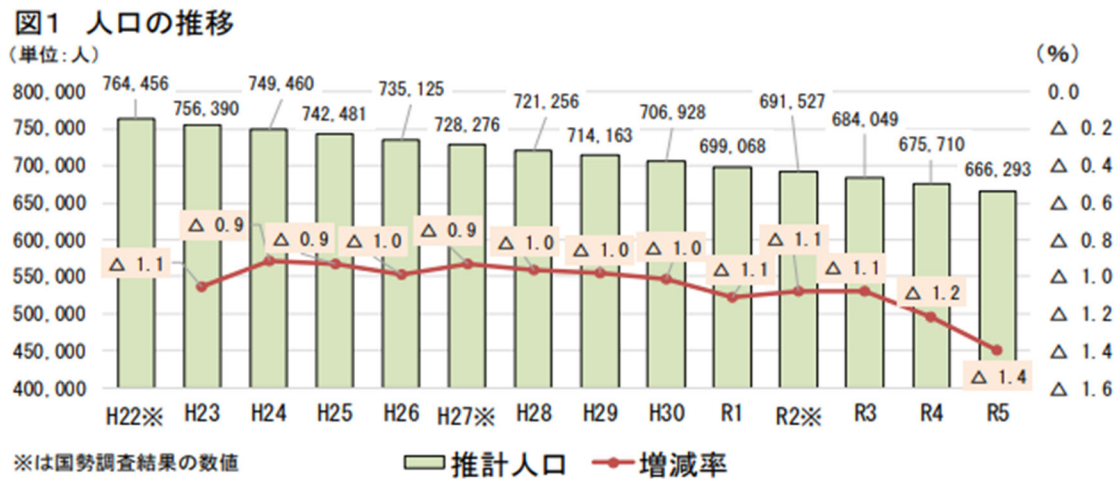
ヤングケアラーは同年代が経験しているような、勉学に一心に打ち込んだり、友人と遊びに行ったり、といった経験がないことも多い。しかし、同年代とは違う経験を積み重ねてきている。それは紛れもなくヤングケアラー自身の価値であり、自己のプラス面としてアピールできるものだ。アピールが上手くいかないのは企業側の無理解も大きな理由であ

るため、ヤングケアラーの認知度を高め、理解を得る必要がある。

2-2. 高知県の人口減少

高知県の人口は年々減少している。『高知県の推計人口年報（令和5年）』によると、令和5年（2023）10月1日現在の推計人口は66万6239人で、昨年度と比べ1年間で9417人減少、10年前（平成25年）（2013）の人口（74万2481人）と比較すると7万6242人減少している。年齢別の割合を見ると、15歳未満は10.4%、15～64歳は53.2%、65歳以上は36.3%となり、また平成29年（2017）から令和5年（2023）までの推移をみると、15歳未満及び15～64歳の割合は低下し続け、一方65歳以上の割合は上昇し続けている。

図1 人口の推移 出典：『高知県の推計人口年報（令和5年）』p.3 図1



出生児より死亡者が多い自然減の状態に陥ったこと、それにより経済が収縮し若者が県外流出しているため転入者より転出者が多いことが、人口減少の原因である。働き手が減少したことでさらに経済の収縮が進み、それにより若者が高知県に魅力を感じなくなり出ていく、という負のスパイラルに陥っている。

高知県は人口減少の負のスパイラルを打破するため、「第2期高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、

【基本目標1】地産外商により魅力のある仕事をつくる

【基本目標2】新しい人の流れをつくる

【基本目標3】「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の希望をかなえる、女性の活躍の場を拡大する

【基本目標4】高齢者の暮らしを守り、若者が住み続けられる中山間地域をつくる

の4つの目標を掲げている。【基本目標1】【基本目標2】に関連して、I・Uターンなど移住促進策の強化や、多様な人材の活躍促進を行っている。

2-3. 課題

上記の2点の問題「ヤングケアラーの就職難」と「高知県の人口減少及び経済収縮」を解決するため、以下4つの課題を上げる。

- ・高知県民のヤングケアラーに対する理解を深める
- ・地元の潜在的な人材としてのヤングケアラーの発掘
- ・ケアを継続しながら地元で就職可能にする
- ・地元企業の人材の確保・活性化

3. 事業内容

①企画展示

【目的】

ヤングケアラーという言葉を県民に対して周知する。ヤングケアラーの周囲の人々にサポートが必要な人がいると気づいてもらうと共に、ヤングケアラー本人の自覚を促す。また、支援機関の存在を広め、その助けが必要な人に情報を届ける。就職に関する情報を提供する。

【展示場所】

オーテピア高知図書館内 展示スペース

【内容】

図書館が所蔵するヤングケアラー、就職活動に関する資料を展示する。また、ブックリスト、支援機関の紹介のチラシやパンフレットを設置する。ヤングケアラーを見つけるアセスメントシートを掲示する。

②就職支援員を対象とした研修の実施

【目的】

就職支援機関の職員、学校の進路指導担当職員にヤングケアラーについて理解してもらう。

【会場】

オーテピア4階 ホール・研修室・集会室のいずれか

【内容】

子ども家庭課児童福祉担当に相談して講師を派遣してもらい、高知県就職支援センターやこうち若者サポートステーションなどの就職支援機関や、高校の進路指導担当職員や大学の就職支援担当職員に対して研修を実施する。ヤングケアラーについて理解を深めることで、よりヤングケアラーに寄り添った支援・指導を行えるようになることを期待する。

図書館からは会場提供のほか、出前図書館を行い、ヤングケアラーや就職支援に関する資料を提供する。

ビジネス・ライブラリアン講習会で学んだ鳥取県立図書館の事例のように、図書館外で行われるヤングケアラーの研修にも出前図書館を行う。これにより、図書館が所蔵する資料を多くの場所で役立ててもらい、ヤングケアラーに対するより効果的な支援が見込める。

③就職相談会

【目的】

ヤングケアラーが就職について相談できる場を設ける。

【会場】

オーテピア高知図書館内にあるグループ室。Zoom 等を活用し、オンラインでも参加できるようにする。

【内容】

オーテピア高知図書館では、こうち若者サポートステーションが進路相談会を月に一度行っている実績がある。それとは別にヤングケアラーに特化した就職相談会を実施する。

高知県就職支援センターやこうち若者サポートステーションといった就職支援機関の職員や、ヤングケアラーの支援機関の職員を相談員として招く。就職支援機関の職員には、就職相談会の実施前に②の研修に参加してもらう。

この就職相談会でも出前図書館を行う。

④合同企業説明会に参加する

【目的】

現役就活生の中にいるヤングケアラーに就職支援を行う。

多くの企業にヤングケアラーについて理解を深めてもらう。

【内容】

高知県商工労働部商工政策課など高知県が主催として携わる合同企業説明会でブースを構え、出前図書館を行う。関連資料の展示・貸出のほか、ヤングケアラーに関するブックリストや、ヤングケアラーの理解を促進するリーフレット、支援機関のチラシ・パンフレット類を配布する。

③就職相談会と同じく就職支援機関の職員に相談員として同行してもらい、就活生の相談を受け付ける。特にヤングケアラーを対象とする。

説明会に出展する企業にブックリスト・リーフレットを配布するよう主催者に依頼する。企業の採用担当者がヤングケアラーについて知ること、ヤングケアラーを受け入れやすい土壌ができると期待する。

4. おわりに

ヤングケアラーが抱える問題を図書館が直接解決することはできない。例えば、病の母の世話を追われている子どもの代わりに母親の介護を担うことは、図書館にはできない。だが、根本的解決ができる他の機関へ繋ぐこと、助けになる様々な情報を提供することはできる。図書館にできること、していくべきことをこれからも考えていく。

今回のビジネス・ライブラリアン講習会で、先生方から学んだこと、同じ班の皆さんと共にワークショップに取り組んだこと、受講生の皆さんと色々な話をしたこと、全てとても楽しかったです。貴重な経験をさせていただきました。皆様、本当にありがとうございました。

注

(1) 『高知県ヤングケアラー実態調査』令和5年2月

https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2021122400217/file_contents/YC-survey.pdf

『ヤングケアラーの実態調査結果(一部抜粋)』令和5年2月 高知県庁子ども家庭課

https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2021122400217/file_contents/YC-survey_extract.pdf

(2) 『自治体のヤングケアラー支援』内尾 彰宏, 濱島 淑恵／編著 2023.10

(3) 神戸新聞 2020/9/19『仕事と介護で睡眠2時間 相次ぐ暴言、徘徊を我慢 祖母殺害へ至る過酷な日々』 <https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202009/0013708811.shtml>

参考文献

『こどもまんなか こども家庭庁』

<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/>

政府広報オンライン『「ヤングケアラー」を知っていますか?』

<https://www.gov-online.go.jp/article/202312/entry-5265.html>

ヤングケアラーの実態に関する調査研究 (令和4年3月)

https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_13332.pdf

高知県ウェブサイト「ヤングケアラーについて」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2021122400217/>

高知県の推計人口年報（令和5年）

https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/t-sukei/file_contents/r05_nenpou.pdf

まち・ひと・しごと創生とは（高知県ウェブサイトトップ>組織>産業振興推進部>計画推進課）

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/sousei/>

第2期高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略〈令和5年度版〉の策定について

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2023041800062/>

日本財団ジャーナル

【家族を見る10代】就職・転職でぶつかる壁。ヤングケアラー協会・宮崎成悟さんに聞く
企業に必要な視点

<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/85805/young-carers>